

2001 年度  
GNC 活動報告

平成 14 年 3 月



## 2001 年度GNCモンゴル植林ツアー概要報告

実施日程:2001 年 5 月 5 日～5 月 12 日

参加者:緑援隊(7 名 )GNC 現地スタッフ(4 名、雇用者含む)モンゴル国(17 名)

### —植林作業—5 月 7 日～5 月 9 日

さて、今回のツアーでは、TNTgroup を中心にモンゴルの若者たち 17 名が、GNC ゲルに 3 日間泊まり込み、ツォゴーさん(GNCモンゴル責任者)の畑の周囲に、日本から参加した学生たちと共に木を植え、モンゴル料理をつくり、川で遊び、馬に乗り、バスケットやしゃがあ(モンゴルのゲーム)をし、素朴なとても思い出深い交流ができました。両国内にさらに GNC のネットワークが広がったようでとても嬉しく思っています。

ほぼ予定通り、畑の周囲の植林を終えました。(ウリヤスおよそ 450 本植樹)一部、苗木の購入が間に合わず、植林できなかった部分については現地スタッフにより、秋に植える予定です。



### —小学校での紙芝居公演『木を植えた男』&記念植樹—5 月 10 日、

小学校(第 76 小学校)での紙芝居公演は 40 分近くもかかるので、子供たちが退屈するのではと心配でしたが、なんとか、最後まで混乱せずに終える事ができました。もし、少しでも、彼らの心奥深くに、『木を植えた男』の想いが伝わってくれば……と願うのみです。

記念植樹は、とにかく、元気いっぱいの子供たちにもみくちゃにされながら行われました。果たして何本の苗木が根づいてくれるのでしょうか……

今後も、紙芝居公演&記念植樹は各地の小学校で継続していく予定です。

今年のツアーでは、特に車力村の国際交流員のナンジン・ドルジスレン(ドルジン)さんに現地での通訳や紙芝居の翻訳など多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。



—初の GNC & TNTgroup 共催の意見交換会開催—5 月 6 日（自然環境省内会議場にて）

- ①自然環境省、
- ②モンゴル自然環境保護連盟(NGO)
- ③モンゴル国立農業大学
- ④モンゴル国立大学エコロジー教育センター
- ⑤エコアジア大学、
- ⑥モンゴル国立大学(生物学部森林研究学科)
- ⑦園芸会社
- ⑧ワンワールド青年機構(NGO)

各々の代表者、その他に、モンゴル国の大学生、U.B 在住の日本人留学生、青年海外協力隊の方など 30 名余りが参加し、通訳を介して、モンゴル国立農業大学副学長のエルデネバートル さんの基調講演「モンゴルの国の自然環境概要」を始め、9:00～17:00 の長時間、モンゴルの環境問題を中心にそれぞれの立場からの活発な意見交換ができました。

参加されたモンゴル側の各団体の方達によりますと、モンゴル国内でこうした横の関係での情報交換のできる場はまだまだ確立されておらず、この意見交換会は、他の団体、機関の活動内容、状況を知るうえでもとても良い機会であったという事でした。

開催にあたって会場手配、モンゴル側出席者への案内、当日の受け付けなど、TNTgroup の現地スタッフの方々は大変よく準備を整えてくれました。

今後も、TNTgroup の方達とは今年の共同開催をベースに、より有意義な会へと発展させていけるよう、協力していきたいと思っています。



### —ウランバートル市街地での街路樹の記念植樹—5月9日

新たな若者のグループ CAM&J と共に、街路樹を植樹しました。

今後も、計画的に市街地の街路樹を整えていく事は大切な事だと考えていますので、良い形で、協力していきたいと思っています。



### —砂漠化防止緑化プロジェクトスタートへ向けて—

今回のモンゴルでの活動を通して、現在、モンゴル国で深刻な問題になりつつある砂漠化の防止のための植林の必要性を改めて痛感しました。今後、GNCとして、具体的な植林地、樹種の決定、育苗システムの充実などに関し、自然環境省、モンゴル国立農業大学、モンゴル国立大学エコロジー教育センター、TNT group、GNC 現地スタッフと連携し、検討を重ね、早い時期での”砂漠化防止緑化プロジェクト”のスタートを目指します。今回はその準備のための打ち合わせを諸団体の関係者で行ないました。

—交流会—5月10日今年も多くの方々との出会いがありました。





# 加藤登紀子 UNEP 親善大使 ツォゴーさん農場視察&交流会

2001年8月13日



ツォゴーさんにより農場案内



左→当日欠席のGNC宮木代表からのメッセージ

中→環境教育センター長バザルドルジさん(右)の基調講演に熱心に耳を傾ける登紀子さん。

右→登紀子さんからモンゴルの若者達への温かい激励メッセージ



TNTgroup の仲間と登紀子さん・モンゴルの歌を一緒に歌ったり(左)、ビルゲンさんからは記念品贈呈(右)



左→ツォゴーさんの畑で採れたスイカ第1号を試食！モグモグ・なかなかおいしかったですよ

右→モンゴルのおもてなしヒツジの石蒸焼き・右手にナイフで丁寧なそぎながら食べました。



意見交換では、登紀子さんは実に熱心に皆の話に耳を傾けてくださり、様々な角度からの有意義な質問と提案をしてくださいました。特にソ連撤退後、放置された大農地の状態を問題視され、現状をより正確に把握し、早急に何らかの対応していくことが必要ではないかとおっしゃっていました。最後は、「seed in the field / 木を植えよう」を参加者それぞれが順番に自由にメッセージをつけながら唄いました。その他、ヒツジの解体を見学したり、馬に乗ったり、あっという間に楽しいひとときが流れていきました。

## 2001 年度研究報告会

### 第 2 回 NGO 合同研究 & 活動報告会

今年度は、「NGO・NPO は経済的豊かさをもたらせるか」というテーマで基調報告を致しました。

今回の報告は、GNC の活動の位置づけについて今考えていることを、率直に言葉にして皆様の前にそのまま投げかけてみるという試みでした。

予想通り、様々な反応がありました。わかりにくい、難しいという反応もありました。ただ、わかりにくい、難しいとおっしゃった方々が、その後の懇親会の席でもその点について執拗に質問し、議論し、相互理解につとめようとして下さったこと、これはとてもうれしいことでした。

簡単には分かり合えなくとも、相互理解をするために前向きな姿勢で意見交換をし、今後の活動につなげてゆくことが、このような会を開くことの最大の意義だと思うからです。

今後も臆せず率直な言葉を発し続けていこう、それがきっと何か前向きな方向につながるのだから、あらためてそのような思いを深めました。

(GNC 代表宮木いっぺい)

### 『NPO・NGO は経済的豊かさをもたらせるか』

- ◆日時： 2002年2月2日(土) 18:00～21:00
- ◆会場： 東京ボランティア市民活動センターB 会議室
- ◆参加団体・個人
  - ・西 敬史氏(緑化支援団体 青樹会 事務局)
  - ・モンゴル青少年 NGO「TNTgroup」
  - ・日韓アジア基金
  - ・GNC(Global Network for Coexistence)

・内モンゴル沙漠化防止植林の会

◆主催: GNC(Global Network for Coexistence)/ 内モンゴル沙漠化防止植林の会

**プログラム** 司会進行: 増田尚子(内モンゴル沙漠化防止植林の会)

1. 開会挨拶 18:00~18:05
2. 参加者自己紹介 18:05~18:30
3. 基調講演 18:30~19:10  
「NPO・NGO は経済的豊さをもたらせるか」~シリコンバレーとモンゴルを事例にして~  
講演 宮木 いっぺい(GNC 代表) **レジュメ参照**
4. 意見交換 19:10~20:55
5. 閉会挨拶 20:55~21:00

閉会后懇親会

### 参加団体プロフィール

**西 敬史 氏(緑化支援団体 青樹会 事務局)**

〒156-0043 世田谷区松原 3-17-2 TEL/FAX 03-3321-2660

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~aojyukai/>

緑化支援団体 青樹会の事務局をなさっている方です。青樹会さんは、中国内モンゴルの沙丘・草原緑化研究会を支援する旅行参加者を主体とした団体で、内モンゴル自治区赤峰市翁牛特旗烏蘭敖都で活動を続けておられます。

**モンゴル青少年 NGO「TNTgroup」**

代表 Batbayar Nasanbilig(ナスカ)日本在中 E-mail: [naska89@hotmail.com](mailto:naska89@hotmail.com)

モンゴル国 TEL&FAX: 00971-1-1-312609 E-mail: [tntgroup@mongolnet.mn](mailto:tntgroup@mongolnet.mn)

(モンゴル語、英語、ロシア語—OK)

若者たちの潜在的なパワーを十分に発揮させモンゴル独自の独特なかつ新たな社会開発と自立を探し求めることと共に外国のNGO団体と協力し地域開発、環境保護、平和作りに携わりそれがモンゴルの発展と繁栄に貢献となることを目的とし、国の為に想像力と能力を活かし自立した自発的な事業を展開させて行こうと”TNT group”を設立致しました。植林、子供や困っている人々の支援、スタディーツアー、情報提供、プロジェクト企画、様々な企業や団体に対する呼びかけ、教育環境の改善に向けての諸事業、テレビやラジオ番組、様々なコンテスト等など若者に出来るものは全て試みていきたい。

**JAPAN KOREA ASIA FUND 日本本部**

代表 車 知也、林 香苗、禹 守根(ウ スグン)

連絡先 113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 財団法人 アジア文化会館(ABK)

TEL: 03-3946-4121 FAX: 03-3946-7599

E-MAIL: [kuruma@mva.biglobe.ne.jp](mailto:kuruma@mva.biglobe.ne.jp) (車), [dh985405@mita.cc.keio.ac.jp](mailto:dh985405@mita.cc.keio.ac.jp) (禹)

今回参加者 車知也(東京大学農学部3年)・林香苗(早稲田大学人文社会学部3年)

<http://www.iloveasiafund.com/>

日韓アジア基金は 2001 年 4 月、「日韓の歴史の壁を越える・21 世紀を担うアジアの若者を支援する」という大きな 2 つの目標を掲げて発足しました。21 世紀はアジアの世紀です。アジアのリーダー的存在である日本と韓国は不毛な消耗戦を繰り広げるのではなく、共に協力して他のアジアの恵まれない国々に対して手を差し伸べようではありませんか！当基金はそんな思いを共有する日韓両国の若者により創立された基金です。

#### **GNC(Global Network for Coexistence)**

代表 宮木いっぺい

〒164-0011 中野区中央 3-22-17 ゆうゆうハウス 101 TEL&FAX 03-3371-0550

E-mail [im01-gnc@kt.rim.or.jp](mailto:im01-gnc@kt.rim.or.jp) <http://www.kt.rim.or.jp/~im01-gnc>

米国での同時多発テロ、アフガン爆撃などをきっかけに、今、世界が抱えこんだ危機的状況がはっきりと浮かび上がってきました。1995 年、私達は3つの『共存』:①国、民族など人類相互の共存②自然(環境)と人間との共存③過去、現在、未来の共存が実現する世界をめざし、人々が国境を超え問題解決のために共に行動を起こし、ネットワークを広げていく事がその実現の大きな原動力となると考え GNC を創設しました。現在、モンゴル国の仲間と共にモデル農場作り、植林など様々な活動を続けています。

#### **内モンゴル沙漠化防止植林の会**

代表 B. セルゲレン

〒112-0011 文京区千石 3-8-2-401 TEL/FAX 03-3945-2458

代表メール [shokurin@md.newweb.ne.jp](mailto:shokurin@md.newweb.ne.jp)

<http://www2.newweb.ne.jp/wd/sergelen/desert.html>

内モンゴル沙漠化防止植林の会は中国内モンゴル・ホルチン沙漠において、牧草地・農地の沙漠化防止を目的とした活動に取り組んでいます。実施に当たっては、現地住民の環境意識の昂揚と生活文化の相互理解を深めるため、日本側の植林協力隊と地元牧民や学生たちの交流にも重点を置いた活動を行っています。

昨年からは今までのバッフル・ソムでの活動に加え、ゴルバンファ・ソムでの学校自立支援プロジェクトを開始しました。